



挨拶に立つ6支部長



講演する高下氏

今後の代理店経営について

神奈川保険Gの高下氏が講演

神奈川県代協

神奈川代協は10月4日、横浜市のあいおいニッセイ同和横浜ビルでオープンセミナーを開いた。このセミナーは同代

協の6支部での合同開催によるもので、こうした企画は同代協で初めての実施となる。セミナーでは、株式会社

社神奈川保険グループの高下直也氏が「今後の代理店経営について考える」金融庁ヒアリングを受けてくをテーマに講演。同社は横浜市に本社を構える生損保23社、少額短期3社を乗り合う代理店で、金融庁のヒアリングは2015年11月と2016年11月の二度、経験している。高下氏は、金融庁から受けたヒアリング項目の内容やその際の自社の回答内容などを紹介。二度のヒアリングを受けて感じたこととして「当局は代理店によるPDCAサイクル、とりわけCのチェックの取り組み度合いを重視しているように感じた」と話した。また、自社の回答内容によっては取扱い保険会社にも責任がおよぶことになるとするなど、ヒアリングに對しては真摯に応じる必要がある」と述べた。総じて「保険会社に頼るのではなく、自身・自社の力でお客様の立場・目標に立って募集することが非常に重要になるはずだ」とまとめた。講演後は、同代協企画環境委員長を務める株式会社ベストパートナーの橋本大輔氏が、代理店賠償責任保険の商品概要や加入の必要性などについて説明した。

6支部がセミナーを合同で開催